（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	山形村アートで紡ぐ共生プロジェクト事業
事業主体 （連絡先）	山形村 山形村 2030-1
事業区分	共育、文化の振興／地域共同の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,435,200 円（うち支援金：1,076,000 円）

事 業 内 容

近年、山形村では、国際結婚や近隣企業の実習生受入れ等により、村内でも外国にルーツを持つ方々が多くみられるようになりました。（10 年で 3 倍程度増加）

それに伴い、多くの村民にとって、多文化を知ること、また知ってもらうことの相互の理解がより身近な事となり、今後の村の発展にとっても、重要度が増してきました。そこで、文化芸術（アート）などを通じて、村民が多文化を知る取り組みを行うこととしました。

・民族衣装のファッションショー11 月 2 日
　（200 名以上参加）
・世界の文化を学ぶ（JICA 駒ケ根）7 月 2 日
・言語と文化を体験 7 月 3 日

【民族衣装のファッションショー】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 集客力のある村内イベントで、文化芸術を通じて、PR ができた。また、そこへの参加者や出演者が多文化を理解するきっかけができ、声が聞こえるようになった。
- 中学生を中心に計画したイベントの開催により、授業の１つとして取り扱っていただき、中学生の学びの発表までつながった。また、作成した動画は今後教材としても活用を予定している。

【目標・ねらい】

① 村民の多文化に対する理解のきっかけづくり
② 多文化理解の取り組み発信
③ 多文化交流の増進

※自己評価【　B　】

【理由】
・事業を通じて、多くの参加者及び出演者等から多文化に触れる機会やきっかけづくりができた。
・あくまできっかけであり、今後継続して発信していくことが重要である

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本事業は、多文化理解へのきっかけづくりが目的であり、はじめの一歩目である。村の人口が減少する一方で、今後増えると予想される外国にルーツを持つ方々との接点を、村として今後も意識的に作る必要がある。

今回作成したツールを利用しながら、啓発や交流の場を設ける仕組みを構築したい。そこで、公民館講座や、村保有の施設を生かし、継続的な話題の提供を行いながら、事業を拡大する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある